

- の水、底質、水生植物および魚類中の窒素、りん含量について、千葉大学環境科学研究報告 12: 25-30 (1987)
- 10) 渡辺義人, 桜井善雄: 湖沼の物質循環系における高等水生植物の役割. 水草研究会報 17:13-20 (1984)
- 11) 石山 隆: リモートセンシングによる印旛沼の環境調査, リモートセンシング講習会テキスト, 千葉大学映像隔測研究センター (1989)
- 12) 千葉県環境部水質保全課: 印旛沼におけるヒシ採取に伴う水質等影響調査 (1985)
- 13) 生嶋 功, 栗原真理: 富栄養水域で群落を維持するオニビシのストラテジー. 水草研究会報 37: 8-10 (1989)
- 14) 千葉県: 印旛沼に係る湖沼水質保全計画 (1987)
- 15) 千葉県: 印旛沼水質管理計画 (1982)
- 16) 千葉県: 公共用水域水質測定結果 (1989)
- 17) 千葉県環境部水質保全課: 印旛沼, 手賀沼におけるプランクトン等実態調査報告書 (1984)
- 18) 土谷岳令: 霞ヶ浦・高浜入の物質収支におけるヒシ群落の役割. 水草研究会報 13: 6-8 (1983)
- 19) 宝月欣二: 手賀沼湖沼植物の生態学的研究概報. 植物学雑誌 61: 17-21 (1948)
- 20) 小林節子, 宇野健一, 吉澤 正: 印旛沼底質の土質と浮泥層厚—湖沼水質保全計画に関する調査研究—. 昭和62年度千葉県水保研年報 99-106 (1988)
- 21) 小林節子, 宇野健一, 吉澤 正: 印旛沼, 手賀沼のCOD, 窒素, りんの水質特性—内部生産CODと窒素, りんのCODへの変換率について—. 公害と対策 26: 1417-1426 (1990)
- 22) 小林節子: 湖沼の窒素, リン水質目標導入の背景と浄化技術の動向—手賀沼を例として—. 産業公害 28(6): 576-584 (1992)
- 23) 宗宮 功, 津野 洋, 池田健志, 神村正樹: 下水二次処理水による花き植物の水耕栽培に関する研究. 下水道協会誌論文集 27(316): 45-51 (1990)
- 24) 森川昌記, 松岡義浩: 水質汚濁が稲作に及ぼす影響第2報 水田における汚濁成分の動態. 千葉農試研報 25: 137-144 (1984)
- 25) 西村 肇(編): 柏市を水辺の自然空間のある街にするために(第二次報告書)—大堀川の水質と周辺環境整備をどうすすめるか—. 柏市 (1977)
- 26) 祖田 修: コメを考える. 岩波新書 (1991)
- 27) 小林節子, 西村肇: 湖沼のリン循環諸過程の現況把握にもつづいた湖沼のCOD水質予測法. 水環境学会誌 16(10): 711-722 (1993)

## ○浅井康宏著「緑の侵入者たち 帰化植物のはなし」

(朝日選書、1993年5月、294p、1、300円)

日本の帰化植物は約800種に達するそうだ。本業(歯科の臨床学)のかたわら帰化植物の研究に打ち込んでこられた著者が、そのさまざまな姿を興味深く描いたのが本書である。はじめは帰化植物概説ともいべき部分で、いろいろな侵入経路やその後の消長などから帰化植物の類型化を試み、その特性や人間生活とのかかわりにふれている。次の「Ⅱ日本からの進出者たち」は、日本の植物が海外でどのように活躍(?)しているかを描いており、世界各地に足を運ぶ著者の幅広い調査活動があって初めて書きえた新鮮な章である。「Ⅲ帰化植物あれこれ」はなじみの深い日本の帰化植物誌ともいえる。

よく知っているつもり植物群につきつぎと新参者が加わっていることに驚く。最後は「帰化植物ノート」となっており、ここで水生の帰化植物についても10ページ余りが割かれている。50種を超える帰化水草(広義)をリストアップした上で、水生帰化植物が在来種に与えるインパクトの大きさにふれ、学術研究用やアクアリウム用に導入された外来植物の逸出防止に細心の注意が必要であることを訴えている。ホテイアオイやカナダモ類については今までに詳しい研究が行われてきたが、そろそろ帰化水草学として課題を整理してもよい時期だと思いつつ読み終えた。

(角野 康郎)